

## 研究テーマ

言語活動に着目した音楽的感受性を高める指導の工夫

提案者 工藤 紘子

### I 研究テーマについて

#### 1 テーマ設定の理由

「音楽的感受性が高まった児童」とは、表現したい音楽に向かって試行錯誤する時に、音楽を形づくっている要素を活用している児童である。本研究で言う言語活動とは、①音楽から感受したことを明確にする過程で行う活動、②音楽から感受したことを基に、思いや意図をもち、よりよい表現を考える過程で行う活動のことを言う。

昨年度より本研究主題の下、言語活動の充実を図ることで、自分の思いや意図を具現化しながら音楽的感受性を高めることができると考え、音楽づくりを中心に実践を行った。言葉で伝え合う活動を通して、感じ取った要素を共有したり、思いを共感したりして、個々の音楽的感受性を高めていく学習の流れを設定した。

その結果、自分の思いや意図を具体的に言葉で説明する活動を通して、音楽を形づくっている要素に気付く場面が増えた。また、感じ取った音楽を形づくっている要素について自分なりの言葉で表そうとすることによって、児童は、一層主体的に音楽に向き合うことができるようになった。しかし、表現の根拠を問われた際に、音楽を形づくっている要素を用いて伝えることについては課題が残った。

そこで、児童の思いや意図と表現を結び付けるために、音楽を形づくっている要素を基に思考し、よりよい表現を目指して試行錯誤したり、他者と表現の仕方について意見を交流し合ったりする活動を重視する。その活動においては、音楽を形づくっている要素を基にした言語活動の充実を図る。音楽を形づくっている要素を用いた言語活動を行うことで、音楽から感受したことを客観性をもった表現で伝えることができるようになる。また、自分の思い描いた音楽を実際に表現する際の演奏の根拠が明確になると考える。



以上の理由から、音楽から感受したことを生かしながら、思いや意図と求める表現とを結び付ける過程での言語活動の充実を図ることで音楽的感受性が高まると考え、本研究主題を設定した。

#### 2 テーマにせまるための方策

研究テーマにせまるため、以下の視点を設け実践を行う。

##### — 視 点 —

表現及び鑑賞の学習過程における言語活動の充実を図ることで、音楽的感受性を高めるようにする。

#### 〈手立て〉

表現及び鑑賞の学習過程における言語活動の充実を図るために話型を提示する。話型は、音楽を形づくっている要素を活用できるもので、①音楽から感受したことを表現するための話型（受信型の話型）、②思いや意図をもち、よりよい表現を考える過程で使用する話型（発信型の話型）の2つの観点の下に、学習過程に沿った話型を児童が使い分けられるようにする。

